

▶ 第9章

## 「政温経冷」の中国と北朝鮮

### ——「同盟」延長で経済支援再開も焦点に

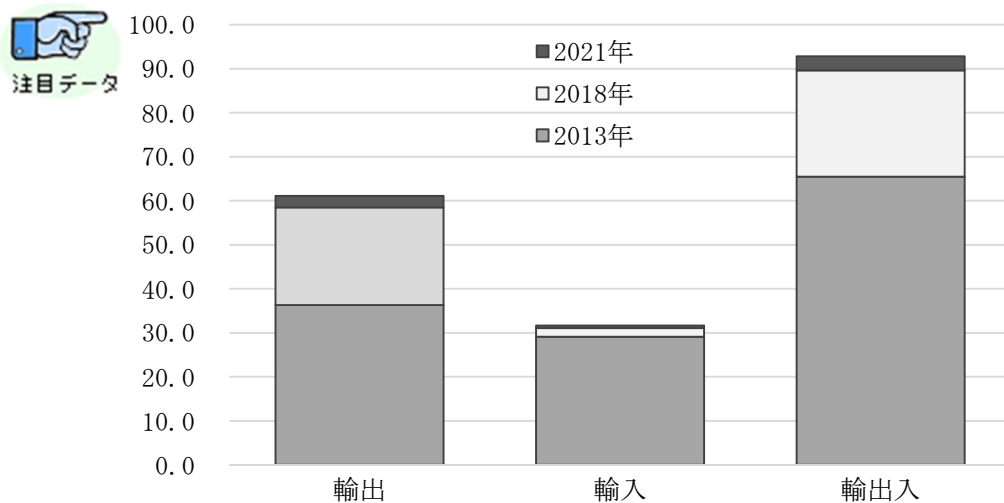
一般財団法人霞山会 主任研究員

堀田 幸裕

#### 【ポイント】

- ▶ 中国は2021年7月に中朝友好協力相互援助条約の期限を更新し、今後も北朝鮮との「同盟」関係を維持していく姿勢を明確にした。大きな枠組みにおいて中朝関係は18年以降の関係強化の流れを維持していると考えられる。
- ▶ 中朝貿易は国境封鎖が影響して、2020、21年と続けて低水準で推移した。政治関係の温かさに比べ、経済交流が冷え込んだ「政温経冷」とも言えるが、北朝鮮から中国へは合金鉄フェロシリコンの輸出が急増し、国連制裁に抵触するかどうかの議論も呼んでいる。鉄道貨物輸送が22年1月に再開され、貿易は徐々に回復していくと推定される。
- ▶ 米国と中朝の対立が深まる中で、朝鮮半島問題でもこうした構図を背景とした外交の駆け引きが展開される。国連安保理での制裁議論にも足並みの乱れが現れ、北朝鮮の核・ミサイル問題解決は一層不透明になってきている。新たな国際環境の下で中朝は政治・安保中心にさらに関係を深化させていくことが予想され、本格的な経済支援再開につながるかどうか注目される。

中朝貿易規模の推移（単位 100 万ドル）  
 (2013年・制裁前ピーク／2018年・制裁実施／2021年・新型コロナ禍2年目)



資料：G T A (Global Trade Atlas)、中国税関統計

